

植物の貌新世紀

多様な視点から生まれる創造のいけばな

吉村華泉 著



し ょ く ぶ つ の か お

植物の貌新世紀

多様な視点から生まれる創造のいけばな

吉村華泉 著

江苏工业学院图书馆
藏书章





吉村華泉 よしもらかせん

1928年 龍生派二世家元吉村華丘の次男として東京に生まれる。
1944年 先代家元没後、龍生派三世家元を継承し、同時に社団法人龍生華道会会長に就任。

1956年 日比谷公園野外オブジェ展、いけばな美術コンクール招待作家展(渋谷・東横)に出品。以後、いけばな百人展、全日本いけばな代表作家展、いけばな百傑展などをはじめとする国内主要いけばな展に作品を発表する。

※その他に五流新世代いけばなの未来展(1964年)、モントリオール万国博覧会・日本館に作品展示ならびにデモンストレーション(1967年)、エリザベス女王来日時に迎賓館に作品展示(1975年)など。

1979年 個展「透明光体・桜」開催。

財団法人日本いけばな芸術協会理事長いけばな協会理事長
主な著書に『作品集—華泉の花』『植物の貌』『龍生派いけばな』『龍生派の古典華』吉村華泉、京子、隆による『鼎』などがある。

植物の貌 新世紀

平成九年十一月一日 第一刷発行

著者 吉村華泉

省
検
略
印

発行者 石川康彦

発行所 株式会社主婦の友社

東京都千代田区神田駿河台一丁目九

郵便番号 100-0001

電話／東京(03)5280-7537(編集)

東京(03)5280-7530(営業)

印刷 大日本印刷株式会社

もし落丁、乱丁その他不良な品がありましたら、おとりかえ
します。お買い求めの書店か本社へお申してください。

田
中
公
館

©Kasen Yoshimura 1997 Printed in Japan

ISBN4-07-216065-2

国日本複写権センター委託出版物

本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(☎03-3401-2382)にご連絡ください。

植物の貌 かお 新世紀 目次

スペースの貌・花の貌 — 3

チューリップ — 10

おみなえし — 16

アリウム — 22

燕子花 かきつばた — 28

霞草 かすみそう — 34

鶏頭 けいとう — 40

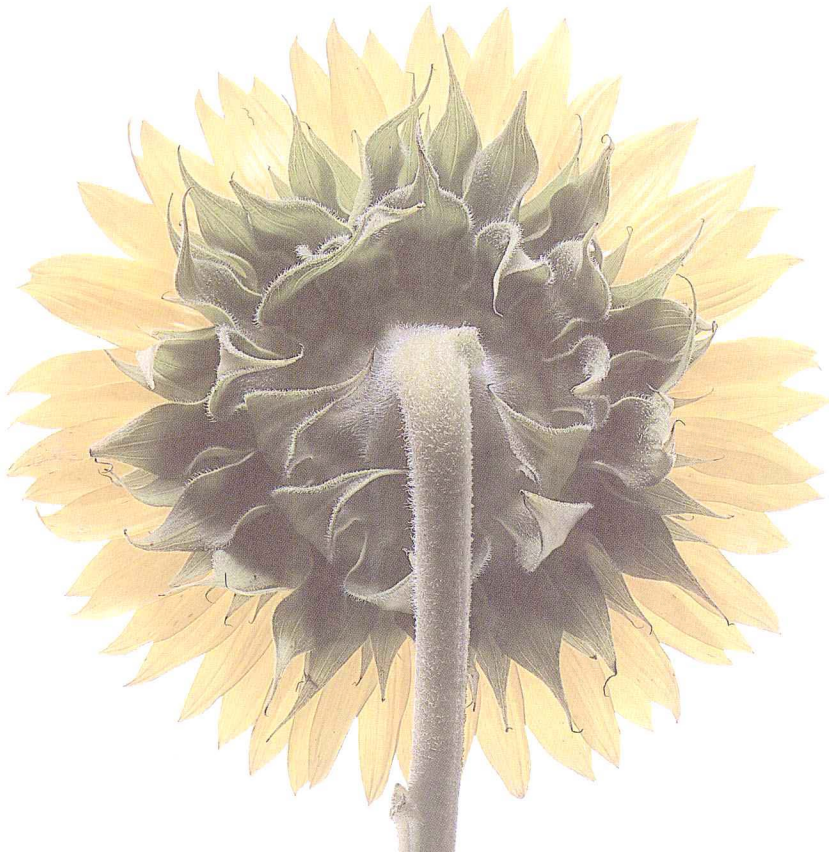
桐 きり — 46

蒲 がま — 50

カラー — 54

かえで 紅葉 — 58

きぶし — 64



葉蘭 はらん — 68

小手毬 こてまり — 72

根 ね — 76

桜 さくら — 82

しだれ柳 — 86

大王松 だいおうしょう — 92

野いばら — 98

水仙 すいせん — 102

すすき — 108

曼珠沙華 まんじゅしゃげ — 114

芭蕉 ばしやう — 118

フエツクス — 124

山百合 やまゆり — 128

ほうき草 — 132



オクロレウカ 136

藪椿 やぶつばき 142

ぎぼうし 148

ミモザアカシヤ 152

モンステラ 158

野菜 やさい 162

インタビュー 吉村華泉「植物の貌」について 168

作品別作家名一覧 172

使用花材索引(五十音順) 175

●撮影／谷口皓一(いけ花龍生写真真部)・桜井ただひさ・尾越建一
●表紙&本文 デザイン・レイアウト／川畑一男・山内隆之十川畑工房

©主婦の友社 1997

R(日本複写権センター委託出版物)

本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での
例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本
複写権センター(☎03・3401・2382)にご連絡ください。



スペースの貌 花の貌

普段見慣れていて特別に花をいけたり、植物で楽しんだりする場所としては

意識していなかった身近な空間でも、見方を変えることで急にその場所にぴったりの花を思いつくことがあります。

今まで機能的にしか使っていなかった場所に植物が関わることで本来の機能とは全然関係のない新しい使い方が見えてきます。

暮らしの中の今日のいけばなは、もはや決まった場所で決められた方法でいける必要はないのです。

固定されたいけばなの場というイメージを二度外して、

日常の中にもっと自由にいけばな空間を見いだしてみてください。

そうすればさらに広く、さらに楽しくいけばなと、

そして植物と関わっていくことができるはずです。



カンガルーポー

■花材 カンガルーポー
スチールグラス

■花器 アクリル花器

いつもはコーヒーカップやポットが置かれている棚に、水槽を泳ぐ黄色い熱帯魚を思わせる楽しくて不思議でかわいいカンガルーポーの表情を取り出していています。小さな口のついた大小さまざまな器を思いどおりにレイアウトして、いろいろの方向に向けたカンガルーポーを入れています。スチールグラスの波を思わせる曲線が、軽やかな奥行きのある空間を作り出し、スチールグラス自体も水草を連想させます。

作品④





作品⑧

アゲラタム

■花材 アゲラタム

■花器 白釉陶器

ベッドサイドのテーブルに置かれた白い器、顔を近づけて見るとアゲラタムの紫色の小さな花が、器の内側に全面をおおうようにはりついています。葉のついた茎がその上を取り巻くように入れてあり、なんだか割れた大きな石の中に水晶の結晶ができていているのを見ているような、その中に吸い込まれるような、不思議な世界が器の中に広がっています。ベッドサイドにこんな作品が置かれていたら、見る夢も不思議な夢になりそうです。



作品 ©

デルフィニウム

■花材 デルフィニウム

■花器 ガラス器 アクリル花器

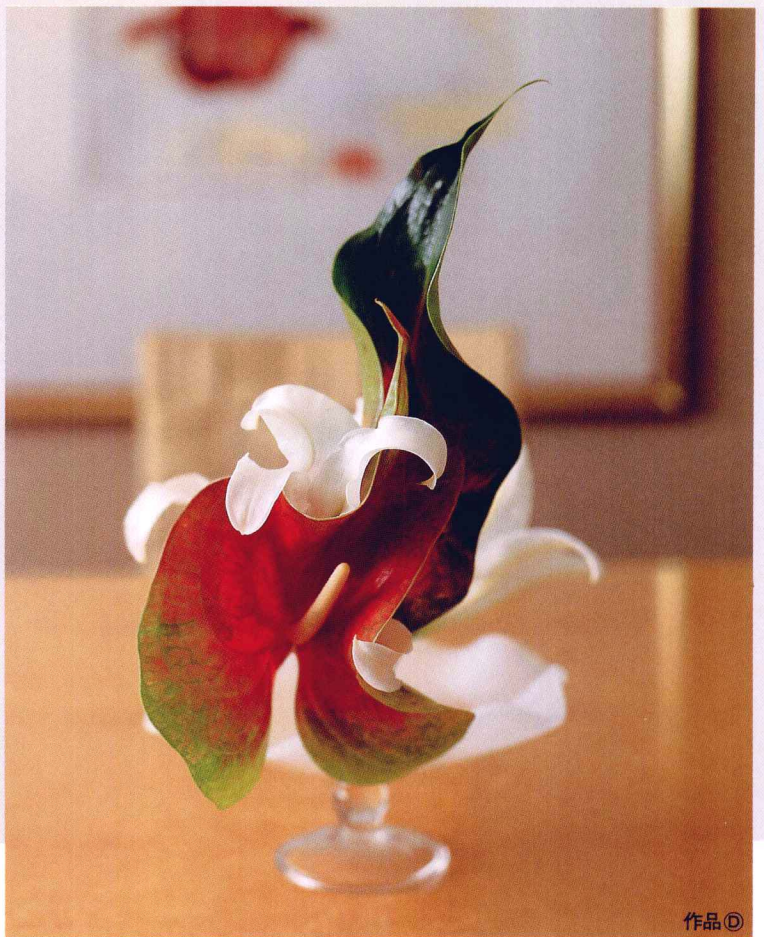
大中小のガラス器とさらに大きなガラス器には、細いアクリルの器を入れてその中へ数色のデルフィニウムの花だけを取って、ピクルスでも漬けるように水の中へ沈めています。後方の器に入った花は、レンズ効果で大きく歪められて、その虚像がおもしろく映し出され、手前の花との対比がとても印象的です。家庭の中では特に清潔で機能が優先されるキッチンにも、こんないけばながあれば調理も一段と楽しくなるかもしれません。

アンズリウム

■花材 アンズリウム
百合(カサブランカ)

■花器 ガラスコンポート

カサブランカの白い花びらを一枚一枚にして、乳白ガラスのコンポートに立てたお化けアンズリウムに寄せ掛けています。まるで花びらが、アンズリウムを後ろから包み込んで溶かしてしまったような、アイスクリームが盛られているような、こんないけばながダイニングテーブルの上にあったらお茶の時間の会話もはずみそうです。



作品⑩



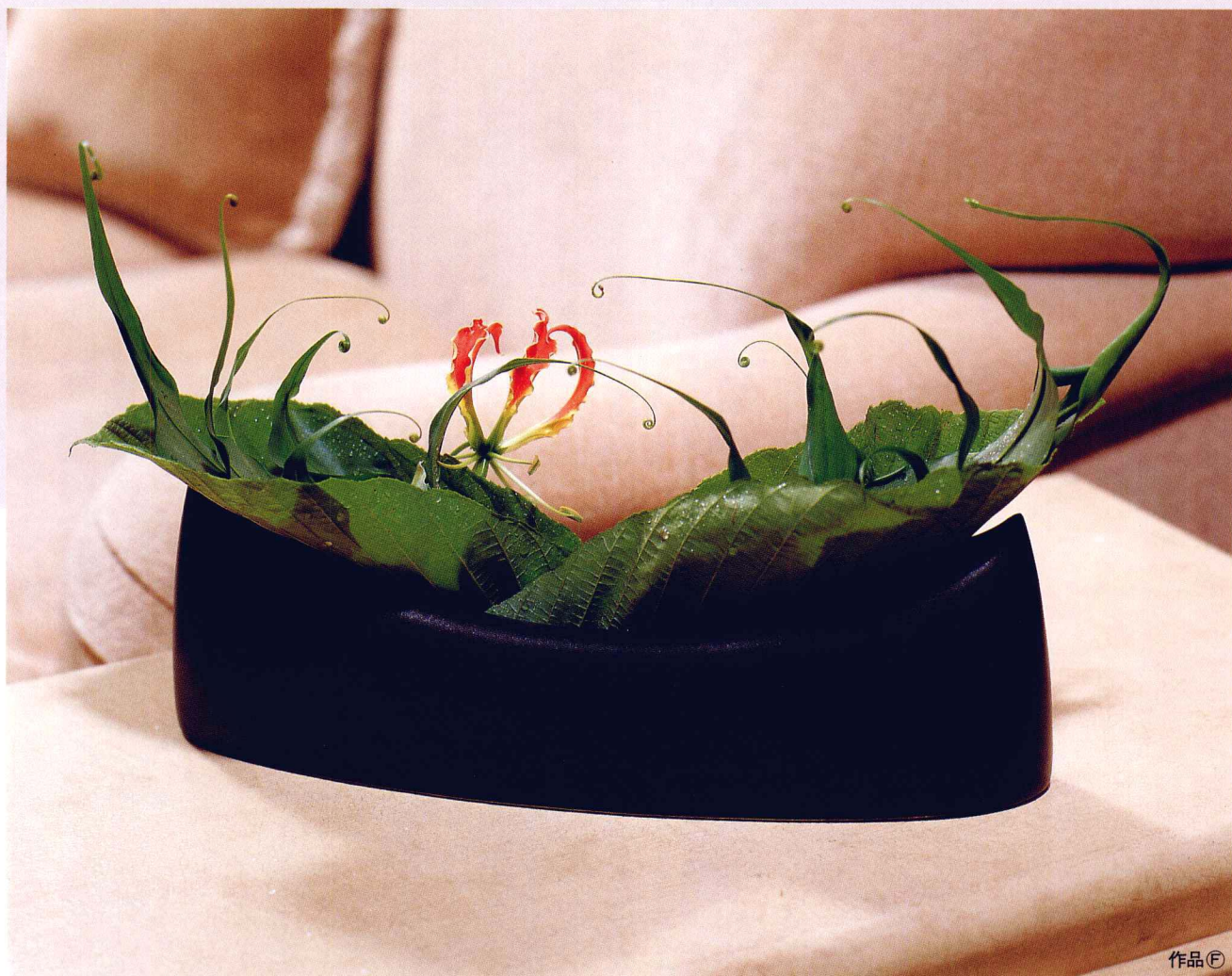
ガーベラ

■花材 ガーベラ うちわサボテン

■花器 黄釉陶器

器の口いっぱいのうちわサボテンを立てて、サボテンの針を花留にしながらガーベラをいけています。シンプルな色彩構成もサボテンの存在感をさらに強くして、この場所に負けない力を増しています。刺のようなデコレーションの鏡、これほど強烈な個性を持った場所でも、その個性が何によって生じているかを的確に読み取って、いけ方に置き換えれば、見事に場所にはまったいけばなが展開できるのです。

作品⑪



作品®

グロリオーサ

■花材 グロリオーサ マロニエ

■花器 黒釉横長陶器

ベージュ系の色で統一された落ち着いた雰囲気のリビング。でもなんとなく目に優しさを与えるグリーンが欲しくなります。そんなリビングのソファサイドのテーブルに、細長い葉先がカールしたグロリオーサの特徴をつかんで、舟形の器にまるでベネチアのゴンドラを思わせる作品を構成しています。くつろぐための部屋に、優しく、さらにくつろぎを増すようないけばながあれば疲れもやわらぐでしょう。

チューリップ

チューリップもずいぶん新しい品種が出てきて、八重咲きの花や、花びらの先が尖って咲くもの、鮮やかな彩りのものなど、

かなり多様です。それにつれて、夏を除いたいつの時期でも見られるようになり、春の草花の代表といったイメージも薄れてきました。

長い抑揚のない茎の先端につく、いわゆるチューリップ形の単純な花と肉厚な葉。

それこそ幼稚園のころから、誰でも一度は描いてきた明快な姿の植物です。しかし、品種の増加による多様さだけではなく、ど

の花もそれぞれ子細に見ていくと、花のふくらみ方、葉の揺らめくような形とそれが作る葉の面の微妙な凹凸とか、さまざまな

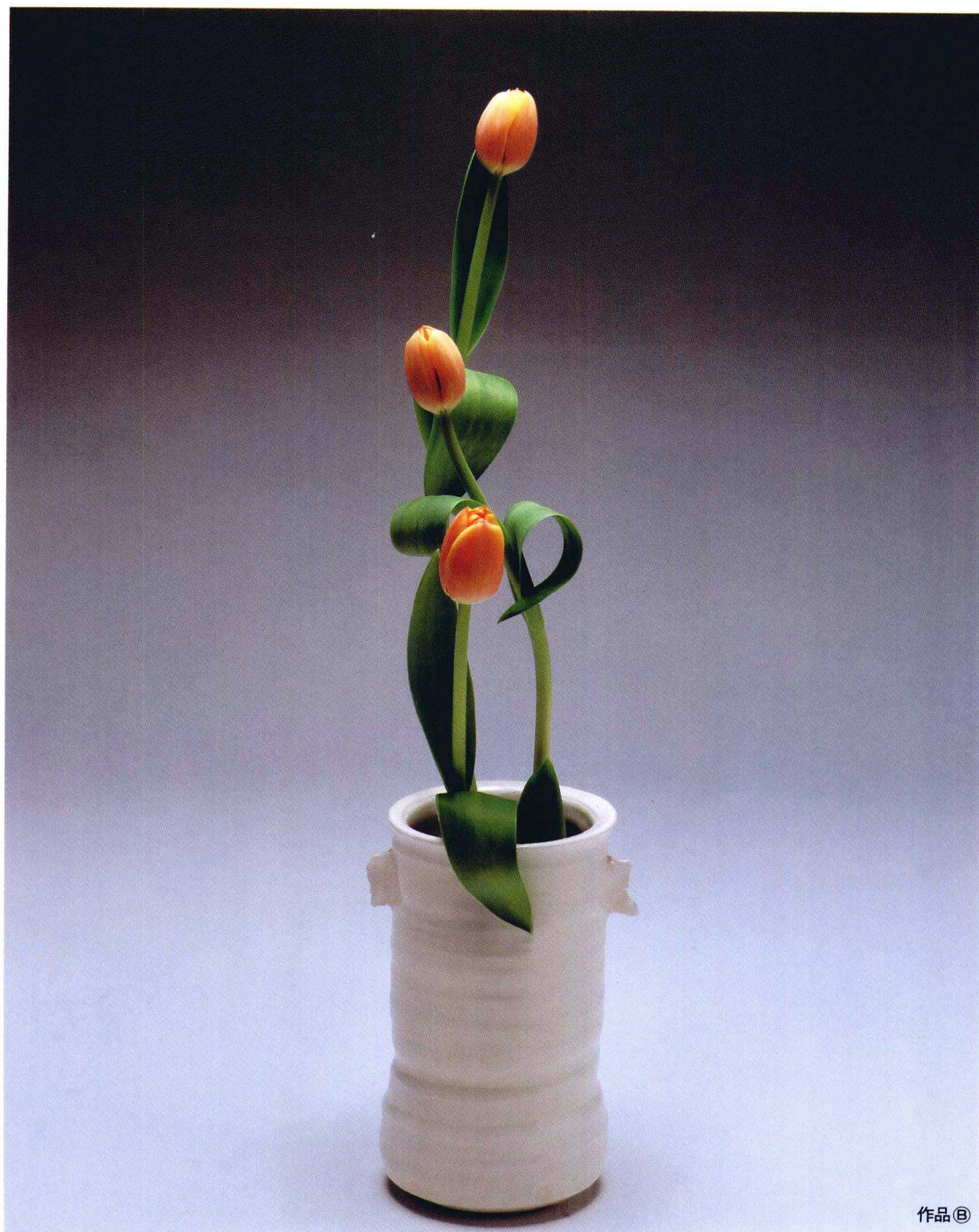
茎の曲がり方など、視点の当て方によっては実にさまざまな貌が見えてくる花材なのです。たとえば葉だけに視点を当てることで、何かの単細胞の生き物のような貌を取り出すこともできるし、茎が柔らかく、したがって花が下向きに咲いてしまう、そのもともとの茎の貌を逆手にとってそこからウィットに富んだ作品を生み出す、という楽しいこともできます。



■花材 チューリップ ストレチア

■花器 長方形陶器

花びらが外側へ向けて尖っているチューリップの花の、その部分に視点を当てて、それをストレチアのやはり尖った花に積極的に関わらせています。二つの花が、それぞれ固有の姿を見せながら、その関わらせ方によって全く別な植物を作り出しているのです。剛直な茎としなやかな茎が互いに交差して、変化に富んだ空間を作り出しています。



作品⑧

■花材 チューリップ
■花器 陶白釉花瓶

花の表情が少し硬く小さめで、ぼろっと可愛い感じのチューリップです。葉がぐるっと巻くようについていて、作者はそこに視点を当てて、その貌を複数組み合わせることで、可愛い花が互いに躍るような感じを作り出しています。日頃花をいじっていると、こんな優しい表情に出会って、ふと心が和むことがよくあります。そんな貌を見つけた楽しいいけばなです。



作品©

■花材 チューリップ グリーンカラー

■花器 管状陶器

まるでチューリップの花に吸いつく力があつたかと思わせるようなユーモラスなイメージです。茎が柔らかい種類のフレーミングパロットというチューリップですが、その曲がりと柔軟性をいかして、花が他の花の茎に取りつくように配することで、こんなユニークな貌を見いだしました。大きなカーブを見せながら空間を多様に切り取る茎の存在も見逃せません。また、チューリップに吸いつかれてグリーンカラーの茎も部分的に隠されたりして、全体が動いて刻々と変貌していくようです。